

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	若葉保育園
日時	令和7年11月6日

1. 活動テーマ

<テーマ>

5歳児…「葉っぱで何ができるかな」
～さつまいものつるのリース作り～

<テーマ設定理由>

・夏から育ててきたさつまいもの生長を見守り、収穫の喜び。芋煮会でさつまいもを味わった経験を経て、その後に残った『つる』を使って製作に取り組んだ。前日もゴーヤのつるを使っての活動を行ったので、子ども達もつるに興味を持ち「さつまいものつるでも何かできそう」ということからこの活動につながった。

2.活動のスケジュール

・野菜の水やりを子ども達と行き、葉っぱの大きさ、形などの生長を観察する。
・生長していくにつれて、畑からつるがはみ出るぐらい伸びてきたことに気づき、つるを伸ばしてみても、どのつるが長いかなど観察をする。
・芋煮会の前にさつまいもを収穫し、芋煮汁にしてさつまいもを食べてみる。
・さつまいものつるを「どうするか？」を話し合いリースの形にしたり、短いものは「へびみたい」など見立てて遊ぶ。
・リースにしたものに飾りつけをしてみたいということから、秋の自然物(どんぐり、まつぼっくりなど)を見つけ活動に取り入れた。

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・自然物(どんぐり、松ぼっくり、山茶花の種と殻)
- ・カラー紙粘土を丸めたもの(赤、黄色、パールオレンジ、黄緑)
- ・毛糸
- ・ポンド、手拭き

4.探究活動での実践

<活動内容>

・どんぐりや松ぼっくりなどの自然物を拾ってきて用意したものや、園庭で見つけた山茶花の種や殻を子ども達と一緒に準備をする。
・自然物だけではなく、カラー粘土を丸めたものも用意しておき、いろいろな物を選べるようにする。
・収穫したすぐの時のつると何日後の製作をする時のつるの色や硬さなどの変化を感じたり、素材の形や感触などの違いを感じ、工夫するおもしろさや表現する楽しさを味わう。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>



・芋ほりをした時はさつまいもの実に夢中になっていたが、その後に残ったつるを集めて「このつるでも何かできそう」と言う一言があった。
・干しておいたつるを見て「黒っぽい色になった」「固くてほじけないね」「枝みたい」などのやりとりをしていた。
・毛糸を巻いた後、持ち上げて「こうやって飾れたらいいね」と周りの子どもと見せ合っていた。
・カラーの紙粘土を丸めながら「黄色は光っているみたいだね」「ピカピカするやつ(電飾)の変わりだね」「たくさん作って飾ろう」と話していた。
・松ぼっくりを塗りながら、「雪みたい」「きれいに塗れた」「どこに飾ろうかな」などとリースに飾りつけることを考えながら塗っていた。
・できあがるまで、一人で集中して飾りつけをしている子どももいた。
・どんぐりの尖っている所をつけようとしていたが上手く付けられず考えた末、素材の特徴に気づき工夫しながら、平らな面をリースをつけていた。
・どんぐりを選んでいる時に「このどんぐりの帽子、2つほこってしてる」「何でだる?」と言い、他にもあるか確認をしていた。2個見つけ「小さいどんぐりができるのかも」「どんぐりの目みたいだね」などいろいろな考えが広がっていった。

5.振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・前回のゴーヤのつるを使っての活動から葉っぱだけでなく、つるや実、種などにも興味を持ち始めたことで今回のつるを使ってのリースにつながった。
・日頃遊んでいる時にも園庭にある山茶花の種を見つけるとツリーにつけてみたいという話になり、その日だけでなく目に付いた何気ない物からすくわく活動の材料が増えていった。
・少人数ずつ行っていく中で、そのグループごとに気づきや出来上がりの雰囲気が変わり、こういうものと捉えるのではなく、広い視野を持って子ども達の活動を見守っていきたいと感じた。
・今回の活動でも子ども達からいろいろなアイデアが生まれていった姿に、自分達で考え活動を広げていく力の育ちを感じることができた。
・今までの経験から「何かできそう」と思い、そこからいろいろな方向に広がっていく余白を大切にしていき、子ども達の気づきを受けとめて、「やってみよう」「こんなことができた」に繋げられるようにしていきたいと思った。